

いたばし水と緑の会会報

素敵なタイトル募集中!

1997. 7. 23 第2号

発行:いたばし水と緑の会 事務局

〒173 板橋区板橋2-66-1 TEL03-3579-2598

板橋区環境保全課内 FAX03-3579-2589

2つのプロジェクト、ゆっくり動き始める

夏から秋への行動計画も具体化

楽しみながら、学びながら行動参加を

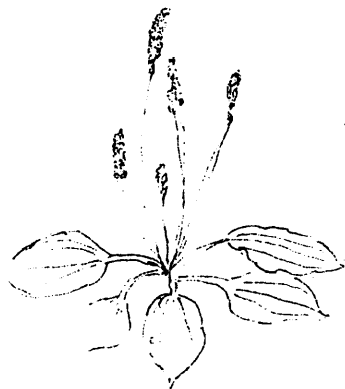
4月27日のはじまりの会の後、「赤塚の森ボランティア」プロジェクトでは、雑木林の観察と手入れ作業を中心の活動を行ってきました。「荒川自然回復団」プロジェクトでは、笹目橋緑地（笹目橋下流右岸の自然地回復をめざすところ）の観察・調査活動を行いました。

これから、夏たけなわ、遊びながらの楽しい企画も含めて活動計画が続々と決まりつつあります。

でも、せっかく、たくさんの人びとが集まってできた自然保護運動です。もっとたくさんの人たちがいろいろなイニシアティブを発揮してもよいと思います。会員のみなさんのご意見、ご提案をお待ちしています。

小屋弘美のちょっと一言

ニリンソウ自生地のまわりの赤塚公園の整備が進んで、前の自然な感じの林がなくなり、せがくのニリンソウの自生地も衰弱に見えてきて、大変悲しくなりました。



会員募集中! 年会費2,000円 郵便振替口座「00170-8-352508 いたばし水と緑の会」

自然地公知の看板作成などを確認

たくさん野鳥・野草を観察、参加者の多才に驚く

木村 延明

この日のメニューは以下の通り。

- ①野鳥の観察
- ②自然地回復予定地の現状調査
- ③予定地中央を走る元白子川の水路沿いの観察
- ④昼食
- ⑤ミーティング
- ⑥戸田橋近くの生態園(ワンド)の観察

朝から青空が広がり観察会日和となった。参加者は30余名。かがみリーダーの簡単なあいさつの後、現地へ向かった。

現地に到着すると、オオヨシキリなどの鳴き声が周囲に響きわたっていて、さっそく野鳥に詳しい方が双眼鏡を片手に解説して下さった。

ひとしきりの野鳥観察の後、自然地回復予定地であるグラウンド全体を眺めながら、野球場として使用する方々との使用権問題の現状を語り合った。各自現状を確認し終え、いよいよ観察会をはじ

める。元白子川の水路沿いを歩きつつ昆虫や植物、水たまりの魚などを観察し、メンバー同士で思い思いに解説しあった。

昼食後は輪になってのミーティング。金谷さんから午前中に観察した植物についての解説、かがみさんからは息子さんが捕獲した昆虫の紹介があって、いよいよ本題に入り、この場所が自然地であることを宣言する看板の内容や位置、作成メンバーなどについて話し合った。

メンバーの自己紹介では、さまざまな特技をお持ちの方がいらっしやるのが分り驚かされた。リーダーのかがみさんや栗林さんも、力強い援軍を得たといわんばかりの表情だった。

ミーティングの後、戸田橋近くの生態園まで移動して観察を行った。途中、前日の雨のために非常に歩きにくい場所があったり、野球場使用者によるゴミの不法投棄場を確認して、散会となる。

今年も板橋環境会議が行われます

9月21日(日) エコポリスセンター(調布)にて 実行委員会主催

当会が生まれるきっかけとなった集まりです。7月7日に予備会議が行われました。

当会に関する2つの分科会の内容は、この1年間の成果を踏まえたものにしたいというのが大方

の意見でした。詳しくは、改めて呼びかけられる実行委員会で決まります。自然保護・回復のための活動をさらに一歩深め、広げるきっかけにするために、当会は全体で取り組みます。

●赤塚の森ボランティア● 6月8日、東京都環境月間参加行事

オオケマイマイを見つけた

1メートル以上のシマヘビにも出会った

香取 孝作

今にも雨が降りそうな雲行きになったかと思うと、日が照ると暑くなり、作業のやりにくい日でした。参加された方は12名でした。ニリンソウを保存する会の会長・塩野栄一さんも、例年の倍の参加者の数に驚いていました。

大門の林の中のゴミ拾いは用意したゴミ袋10枚では足りず、会長さんが急ぎよ買い足しに行ってくれました。みなさんのお陰で、林の下の目に見えるところではゴミは大分少なくなりましたが、斜面上部にはまだまだたくさん溜まっています。

この日は、林の下草刈りも行いました。正午で作業を打ち切りましたが、湿地の西部分のアズマネザサを残してしまいました。

また、クズの刈り取りも行いました。斜面の奥のヤブツバキなどを覆っていたものは、今まで手を入れてこなかったのですが、ここも試みしました。

柵に向かって左側のニリンソウ自生地は、夏にはミゾソバでいっぱいになりますが、先日の雷雨

で冠水したために、柵側の一部を残して枯れてしまいました。ここに水がたくさん貯まるようになったのは公園整備の影響があるかも知れません。

大門のニリンソウ自生地以外では、赤塚八丁目の林でミズキの枯れ木がウバユリの自生地に倒れかかっていたので、これを少し整理しました。また、赤塚城址裏手で、雨水が林の中の土砂を押し流しています。その跡の状況を観察して、対策を講じる必要性を感じました。

ニリンソウが終わり、整備工事すみ、静かになりました。今年はずらしく、ユリノキの花が多く、イヌザクラの花もみごとに見せてくれました。斜面に白色の樹冠を数本観察できました。花期が短いと、ニリンソウ観察会の直後に満開になるので、今まで見過ごしていたようです。

せっかくの花見ですから、来年は、ヤマザクラならざイヌザクラの花見もしてみたいと思っています。

赤塚の森ボランティアの第1回世話人会も行いました

6月8日の午後には、板橋区郷土資料館会議室で第1回世話人会を行いました。参加者は8名。

はじめりの会から2か月間は、主にニリンソウを保存する会のお手伝いの活動ばかりで、話し合いをしないままに世話人一人ひとりの想いにかまけて活動してきたので、まずは、そこから話をは

じめました。

「赤塚の森」ってどこか？

参加者の意見はバラバラ。結局、まとまったのは、町名では赤塚と大門の範囲内の水とみどりのあるところを「赤塚の森ボランティア」の活動範

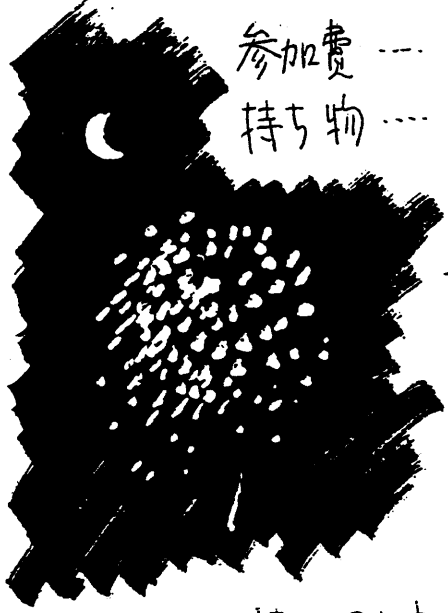
◎ 8/2(土)・8/3(月) 荒川河原キャンプ (10:00 ~ 西高島平駅改札集合
または 現地(仮)笹目橋緑地集合)

<いんやし 荒川自然回復団>としての活動

<活動予定>

- 8/2
10:00 ~ テント設営, タープ設営,
クリーンアップ
- 12:00 お昼 (お弁当)
- 16:00 ミーティング, 河原おまむ
- 7:00 ~ (お風呂の代りに)
- 18:00 夕食と花火見物とミーティング

- 8/3
8:00 朝食,
自然観察
- 10:00 テント撤収
河原おまむ



参加費 --- 800円 (保険料・食費含む)

持ち物 --- お弁当 テントを持っている人はテント (持っていない人は事前に申込み), 軍手, 寝袋またはシート, 食器, 長靴 (持っていない人は丈夫な汚れてもいい靴), 着替え, 懐中電灯, 雨具, 洗面道具, タオル, お弁当シート, 水着 (近くにお風呂屋さんが無いので, 夕方 高島平温水プールに(¥420)行きます), お米と野菜(カレー用の食料), テントマット, タープ (持っている人は)

持ってくると良い物 --- 釣り道具, スケッチブック, 図鑑, 双眼鏡, ビールやジュース, あみ

ミーティング・・・自然回復計画、私たちでできる自然回復実験 (実験池づくり) の検討など

参加申込み・・・かがみ (5375-6406) まで、お早めに。

変更事項があった場合は申込者に連絡します。

小雨決行。雨天の場合は新河岸公園集会所でミーティング。



荒川クリーンエイド 10月26日(日) (詳細未定)

- ・ゴミを分析・記録しながらクリーンアップを行う
- ・水質調査
- ・(仮)笹目橋緑地の計画案の検討会

お4回目
荒川下流で一斉清掃をします。



最終計画案の作成 11月23日(日) (詳細未定)

- ・基本的な計画案を作成し、基本設計、実施設計を行政にお願いする。

圃としました。

しかし、今でもニリンソウが自生している保存活動の対象地たりうところでも「赤塚の森」と呼ぶことにしました。板橋区の崖線は、上野から川越までつづく荒川の崖線の一部です。だから、赤塚・大門からさらに東へ、四葉・徳丸・西台・中台・志村・小豆沢の各地に、水とみどりのプロジェクトが生まれるといいですねと、皆の意見が一致しました。

何をするのか？

これまでの経過から、都立赤塚公園大門地区の水たまりが出来そうな湿地で、公園が出来る前の

田圃のあった頃の昆虫や草花が見られるようなところにしてみたい、これを当面の目的にしました。

誰と何のために？

板橋区や東京都などの行政の参加を得る道を計りながらも、水と緑の会はあくまで任意の民間団体です。この中で、観察・調査・記録などの活動をいっしょに進め考え、相談しながらパートナーシップを育て、少しずつ目的に向かって、具体的な作業を進めていくことにしました。

赤塚公園管理所の所長さんには、近く、会としてごあいさつに行くことにもしました。

(この記事は香取記、事務局編集)

●●●● 夏から秋にかけての行動計画 ●●●●

7月27日(日) ウバユリの花見と夏草刈り作業

午前10時 区立美術館前集合 作業を行う用意(軽装、タオル・軍手、必要に応じて着替えなど)でご参加下さい

8月10日(日) キツネノカミソリ観察会

午前10時 大門地区ニリンソウ観察台前集合

9月21日(日) 板橋環境会議 (別記)

9月23日(火) ヒガンバナを愛でて、大門地区をお掃除し、秋の林を観察する会

午前10時 大門地区ニリンソウ観察台前 作業の用意でご参加下さい

10月11日(土) 赤塚城址裏の竹林を楽しむ会、同時進行で林の手入れ作業に精を出し、あとはまた甘煮会を楽しむ会

午前10時 区立美術館前集合 作業を行う用意(軽装、タオル・軍手、必要に応じて着替えなど)でご参加下さい。たぶん、会費は頂くことに……。

10月20日(月)~23日(水) いたばし・みどりの展示会(仮名、内容未定)

板橋区区役所1階ロビーにて。環境保全課による「みどりのマップ」作成活動の成果発表の他に、当会も参加して、いろいろなアピール、展示を行いたいと思います。問い合わせは、環境保全課・坂本まで。

注：行動計画は日々動きます。詳しくは事務局まで

●投稿●

ゴミのポイ捨て雑感

徳丸・猪鼻 昭二

過日、当会で実施した赤塚公園（崖線）の清掃作業に参加して、公園緑地内のゴミの多さに驚いた。道端の空き缶などのポイ捨てに辟易（へきえき）しているので、日頃感じていることを綴ってみた。

かつて「衣食足りて礼節を知る」といわれていたが、物があまりにも豊富になり、使い捨てを謳歌している間に、礼儀正しかった日本人が公德心や恥じらいの文化まで捨ててしまったようだ。

ゴミをポイ捨てするのは一部の人であると思いたい。このような風習が蔓延してきた原因は、次のようなことではないかと考える。

①自由をはきちがえた教育としつけ（実際は放任）で、自分さえ良ければ他人はどうでもよいという風潮が蔓延したこと。

②家庭や学校、そして職場でも、身の回りの清掃をする体験がなく、誰かが掃除してくれるという他人まかせの風習が広まったこと。

③どこでも飲食し、させるような食文化の退廃と、売れさえすればよい商道德の麻痺。

④空き缶などは、ちょっと持って歩けば次の自動販売機に収納箱があるのに、ほんの少しの我慢が出来ない忍耐力と公德心の欠落。

⑤タバコの吸殻や空き缶などで街を汚すと見苦

しいという清潔感の欠落。

⑥「悪いことは悪い」として裁く法制度や機能が麻痺し、軽犯罪が野放し状態であること。

⑦街の人びとは知らない人ばかりで、なにをしても恥ずかしくないと感じなくなり、また、他人の子どもに声をかける習慣がなくなったこと。

⑧大人たちが私利私欲に走り、子どもたちに公德心どころか逆の行動をたくさん示していること。

⑨自動車で排気ガスや騒音をまき散らし、家庭のエアコンや換気扇でさえ、道行く人に熱風や厨房の煙を吹きかけていることもあり、文明の利器導入に際して、まわりの人間に対する配慮があるそかにされたこと（昔は家庭の煙突はみんな天を向いており、厨房の煙を吹きかけられることはなかったですね）。

これらの原因である悪いマナーが改まり、街がきれいになるのは「百年河清を待つ」しかないのでしょうか。川崎市や新宿区などでポイ捨て禁止条例が施行されましたが、条例などなくても、みんなの心が豊かになって、道路や公園はもちろん、街がきれいになって住みよくなるように願ってやみません。

●返稿● そこで、ひとりで勝手に掃除に行きました

稲荷台 木村 松夫

いやはや、ごもっとも。クルマは乗るしタバコぶかぶか（ただしポイ捨てだけはやりません）のわたしとしては、猪鼻さんほどキビシイこと言えないけれど、いつも通っている大門ニリンソウ自生地の崖上の諏訪神社裏道の汚れようが我慢できなくて、この前ひとりでゴミ集めやりました。

弁当の食べ殻、缶・ビン、クルマの灰皿の中身そのままそっくり、スポーツ新聞置き去りなどは

かわゆいもので、アダルト雑誌のぼろぼろになったやつから使用済みのコンドーム（コノヤロ！）、はたまた、風呂の道具に化粧品、実に豊かなバラエティー。1時間半かかって、大きなゴミ袋に4つ集まりました。汚かった臭かった！

でも、こういう作業は専門知識不問・組織無用、ひとりで勝手にボランティアで出来るんだから、わたしの適性にピッタシ。また、やります。

今号は文字ばかりの裏つ家誌面でゴミをなさい/事務局